

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
 廃炉加速化研究プログラム（日米原子力共同研究）
 事後評価総合所見**

研究課題名：ヨウ素の化学状態に基づく廃炉及び DOE サイトの修復に向けた廃棄物安定化処理法の開発 代表研究者（研究機関名）：大貫 敏彦（東京工業大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：香西 直文（日本原子力研究開発機構） 再委託先研究責任者（研究機関名）：宇都宮 聡（九州大学） 米国側研究機関：テキサス A & M 大学 サバンナリバー国立研究所 研究期間及び研究費：平成 28 年度～令和元年度（4 年計画） 52 百万円	
項 目	要 約
1. 研究の概要	<p>複数の化学状態で存在する放射性ヨウ素を対象核種として、米国テキサス A & M 大学などと協力して、福島における処理済み廃棄物の放射性ヨウ素の化学状態を明らかにするとともに、ヨウ素の化学状態を考慮して高度な吸着材及び固化体を開発することを目的として、以下の研究開発を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射性ヨウ素の化学状態の解明 2) 化学状態を考慮した放射性ヨウ素の閉込め能の高い固化法の開発 3) 吸着材及び固化体中のヨウ素の化学状態の解明
2. 総合評価	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学状態やメカニズムの解明から良い吸着剤および固化体の候補があがっており、今後は実用化に向けて研究を進めて欲しい。 ・ジオポリマー固化については、固化することで安全評価にどのようにプラスの影響がでるかを検討する必要がある。 <p>S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない</p>